

Google Workspace for Education について

1 Google Workspace for Educationを使ってできること

Google Workspace for Educationは、Google社が提供する無償のオンライン教育サービスです。このサービスは、授業において活用可能なアプリケーションで構成されており、インターネットに接続しないとアプリケーションを使用することができません。

来年度から、各学校では、児童生徒1人1台の端末を校内ネットワークを通してインターネットに接続し、授業等の教育活動で使用することを考えております。

Google Workspace for Educationの授業等で活用できる主なアプリケーションをご紹介します。

- 「ドキュメント」は、複数の人が同時に閲覧と書き込みができる文書作成ツールです。文章だけではなく、ウェブページへのリンクや画像も挿入できます。
- 「スプレッドシート」は、複数の人が同時に閲覧と書き込みができる表計算ツールです。エクセルのように関数や画像の挿入等もできます。
- 「フォーム」は、設問や選択肢を含めた入力画面が簡単に作成でき、アンケートや小テストに利用できます。また、授業中にフォームを使って意見を集め、結果をグラフなどでリアルタイムに表示しながら、児童生徒の議論を深めることもできます。
- 「スライド」は、複数の人が同時に閲覧と書き込みができるプレゼンテーションのツールです。文章だけではなく、図版や写真などを使って、自由に発表資料を作成できます。

2 児童生徒が家庭でできること

児童生徒は自宅のパソコンや個人所有のスマートフォン等でも、G SuiteのアカウントによりGoogle Workspace for Educationのアプリケーションを利用できます。

例えば、授業で作成したスライド資料やレポート、デジタルカメラやスマートフォンで撮影した静止画や動画などをGoogle Workspace for Educationのアプリケーション「ドライブ」に保存し、児童生徒が自宅で振り返り学習をすることが考えられます。

なお、ドライブに保存したデータが、他の児童生徒に見られてしまうことがあるかについてですが、標準設定ではドライブに保存したデータは他人からは見られる心配はありません。ただし、ファイルやドライブごとに共有できるユーザを追加することにより複数のユーザとデータを共有することができます。安易に共有すると個人情報が見られるおそれがあるため注意が必要です。

3 児童生徒個人所有の端末での利用

児童生徒が個人で所有する端末（パソコン・タブレット）やスマートフォンにおけるGoogle Workspace for Educationの利用については、家庭学習で使用することを前提として、その利用を認めます。

4 利用に当たっての留意事項

- ・クラウドサービスの利用に当たっては、旭川市個人情報保護条例に基づき、本人等の同意が必要になります。
- ・クラウドサービスに保管される主な個人情報は次のとおりです。
 - a 児童生徒の氏名、学科、クラス、出席番号
 - b 児童生徒の学習記録（課題、ワークシート、レポート、作品等）
 - c 児童生徒の学習活動の記録（動画、写真等）
 - d a～cの個人情報の一覧や統計データ